
バカとテストと召喚獣 ~ 蒼い瞳の従姉 ~

G A U

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣　〜蒼い瞳の従姉〜

【Nコード】

N7557X

【作者名】

GAU

【あらすじ】

明久と同じ日同じ時間同じ病院で生まれたイタリア人ハーフの少女、夏目綾香は、その自由奔放且つ傍若無人な性格で彼を振り回す！

双子同然に育った彼と彼女のドタバタコメディー

ぶろろーぐ（前書き）

気が付いたら書いてました。

読んでくれる方が楽しんでくれたら幸いです

ぶるるーぐ

とある家族向けマンションの一室。

春の陽気にあてられ、その少年は惰眠をむさぼる。

しかし、ベッドの上の盛り上がりは、一人分にしては大きい。

「んん……」

窓から差し込む日差しに、少年が寝返りを打つ。

その鼻腔を、柔らかい匂いがついた。

「ん？ んんん？」

眉根を寄せた少年が身じろぎしようとする、全身が柔らかい何かで締め付けられる。

「んん？ な、なに……」

軽く寝ぼけたまま眼を開いていくと、視界いっぱい金色が広がる。

ぼんやりしながら“それ”へと手を伸ばし、軽く撫でる。

柔らかい金色の手触りは気持ちよく、なんとはなしに撫で続ける。

「ん、ううん……」

不意に気持ち良さげな声が聞こえた。つづけて体にまとわりついた柔らかいものもどかしそうにうごめく。

そして、金系の向こうに白い肌が見え、閉じられた眼の長いまつげが揺れた。

「……………」

その“顔”を見た瞬間、少年吉井明久の霞がかかった頭がクリアになっていく。

すると、自分のみぞおちのあたりに二つの柔らかい膨らみを感じとり、意識は一気に覚醒した。

「……………」

状況を瞬時に把握したところで、金系の向こうの瞼が開き、蒼い

瞳が表れる。

「……………」

「……………」

数瞬、見つめ合う二人。そして、蒼い瞳の少女が天使のように、ふんわりと笑った。

「おはよ アッキー」

その笑顔に朱を散らす明久。

それを見た瞬間、天使の微笑みが、悪魔の笑いに变化した。

「なーに？ アッキー。おねーさんに欲情した？」

「………… おねーさんもなにも同じ年だよね綾香と僕は」

少女、夏目綾香の嫌らしい笑みを見てゲンナリとなる明久。

「そもそも何で綾香が僕のベッドに……………」

「あー、抱き枕 明久 が気持ちよさげだったから、つい」

「なんだか別のもののルビに僕の名前が使われた気がするんだけど…………？」

悪びれることもなくのたまう綾香に、明久がジト目になる。

「またまたそんなこと言って、おねーさんのおっぱいの感触楽しんでくせに」

「………… 否定はしない」

吉井明久と夏目綾香は従姉同士だ。

同じ日同じ病院で同じ時間に生まれた二人は、双子のごとく時間を共有して育った。

ゆえにお互いのことはたいい解ってしまっ。

下手に誤魔化そうものなら、綾香はアダルトコードぎりぎりのボデイツチを駆使して明久に吐かせようとするだろう。

そして、このイタリア人ハーフの娘は、明久の反応を見て喜ぶのだ。

故に、素直に吐いた方が実害は少ない。

「ちえー、つまんねーのー」

言いながら身を起こし、ベッドから降りる綾香。

そのまま軽く伸びをしてからあくびを一つ。

その様子を見て嘆息した明久は身を起こし、ハツとして綾香の姿を見た。

いまの綾香は、私立文月学園女子の制服に身を包み、肩をグリグリ回している。たわわに実ったソレのおかげで肩こりがヒドいという話を聞いた気がしたが、今はそんなことはどうでもよかった。

急いで首を巡らし時計を見やる。

「……………」

「ん？ アツキー、どしたん？」

時計の短針長針の行方に啞然呆然となる明久。

その様子に綾香が首を傾げる。

「ち……………」

「ち？」

「ちこくだーっ!？」

「あ、ほんとだ」

焦った様子の明久にのんびり同意する綾香だった。

ぶろろーぐ (後書き)

いかがでしたか？

まあ、続きを書くかは反響次第かな？
突発ネタですし。

それでは失礼します

だい いちもん (前書き)

なにやら思っていたよりずいぶんと反響がありましたので、
書きしてみましたよ？

読んでくださるみなさんに、楽しんでいただければ幸いです

だい いちもん

校舎へと続く坂道。

両脇を桜で彩られたその道に、鮮やかな金色が踊る。

「疲れた〜、アッキーおんぶ〜」

「もう、しっかり走ってよ綾香」

少しネジの緩そうな少年に手を引かれ、金髪の少女がぶーたれる。

「だいたいバイク通学ダメなのが問題なんだよ〜。二ケツすれば遅刻なんてしなかったのに〜」

ぶつぶつ文句を言いながらも手を引く少年にならって走る。

おかげで癖っ毛の長くて柔らかそうな金髪と、文月学園指定のブレザーを内側から盛り上げるふくらみと、腰回りを覆うスカートが上下に揺れていた。

「どっちにしたって僕を抱き枕にして寝ちゃった時点でアウトだったと思うよ」

苦笑いする少年、吉井明久にうながされ、仕方無しに足を早める

少女、夏目綾香。

唇をとんがらかせながら明久の後頭部をにらみつける。

「むー、アッキーのくせに生意気な……とっつ」

つと楽しげなかけ声が響いて明久の背中に衝撃が走り、少女の柔らかな体がぶつかってきた。

「わわっ?!」

思わぬ衝撃に驚いて声を上げるも彼女の体をしっかと支えてみせる明久。彼の背中に笑顔でおぶさった綾香は身を起こしてご満悦だ。

「らつくち〜ん いっけー明久号〜」

元気良く右手を突き出した彼女に対し、深々とため息を付いた明久は、彼女を支え直してから軽く走り出した。

どちらかといえば細身な明久だが、その体はきっちり鍛え上げら

れていた。

幼い頃から綾香と一緒に、サバイバル訓練が趣味だという彼女の父親の訓練に付き合わされた結果だ。

綾香はそんな明久の首に手を回し、彼の背中に体を預ける。

彼が坂道を上りきるまでの、わずかな間、綾香は桜を楽しむ。

明久が、足取りも息づかいも乱れぬまま坂を上りきると、そこには浅黒い肌の巖のごとき漢が仁王立ちしていた。

「遅刻だ。吉井に夏目」

「あ、鉄じ……じゃなくて、西村先生。お早うございます」

「あー てっちゃんだー おっはよ〜ん」

明久は軽く会釈し、綾香は明久におぶさったまま身体を目一杯伸ばしながら右手を大きく振った。

その様子にため息をつく西村教諭。

「はあ、おまえ達は……普通に『お早うございます』じゃないだろう。それから夏目。おまえは教師に対してフレンドリー過ぎだ」

「はあ、じゃあ……今日も肌が黒いですね？」

「だねー 今日もいい感じに暑苦しいぞ」

明久が首を傾げながら言う真上で、綾香が片目をつむってペロリと舌を出しながらサムズアップする。

「お前ら……遅刻の謝罪より俺の肌の色や暑苦しさ……の方が重要なのか？」

「あ！ そつちでしたか。すいません」

「あたし的には重要かな？」

謝る明久に、楽しげな綾香を見て嘆息する西村教諭。

「とにかく受け取れ」

そう言っただけで差し出してきたのは二枚の封筒。

それを綾香が受け取り、明久の背から飛び降りると、自分のものと一緒に彼宛の封筒もさつさと破り開ける。

「って?! ちょ!?! ま?!」

流れるような彼女の行動に、焦る明久。

「アッキーのクラスはつと……へえ……ほお……ふうん」

明久に見せないように中身を見てにんまり笑う綾香。

「ちよつと返してよ！」

「やっだよん」

明久は自分のクラスが書かれた紙を綾香から取り返そうと掴みかかるが、彼女は楽しそうに逃げ回る。

それが少し続いたところで……。

重いものが石に落とされたような重量感あふれる音がふたつ響く。

西村教諭の拳が二人の頭を痛打した音だ。

「まったくいい加減にせんか。とつと自分の教室に行け」

呆れたような声を出す西村。その足下で頭を押さえてうずくまる二人。

そして、綾香が痛みのおまわり取り落とした紙には……。

『吉井明久…… Fクラス』

『夏目綾香…… Fクラス』

ふたりの学園最低クラスでの生活が始まった。

だい いちもん (後書き)

いかがでしたか？

普段書いてる分量より短い感じですが、テンポ良く行きたいなと思っております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7557x/>

バカとテストと召喚獣 ~ 蒼い瞳の従姉 ~

2011年10月21日08時01分発行